内閣官房
内閣情報調査室

CABINET INTELLIGENCE and RESEARCH OFFICE

採用案内 2025

内閣官房内閣情報調査室

〒100-8968 東京都千代田区永田町 1-6-1　内閣府庁舎 6 階

採用専用 / TEL. 03 (5253) 2107

直通 / TEL. 03 (3581) 5083

●丸ノ内線 ●千代田線
国会議事堂前駅 3 番出口 徒歩 5 分
●銀座線
溜池山王駅 8 番出口 徒歩 10 分
●南北線 溜池山王駅（千代田線ホーム経由）
国会議事堂前駅 3 番出口 徒歩 5 分

採用情報はこちら⬇

Message

我が国インテリジェンスの中核として

内閣情報官
原　和也

令和６年（2024年）は、我が国を取り巻く国際情勢が一段と不透明の度を増した１年であったと言える。年始の台湾における総統選挙とその結果を踏まえた中台間の緊張は、これまで以上の段階に達したとの見方が多い。また、南シナ海の岩礁を巡る中比間等の対立も予断を許さない状況に至っている。北朝鮮は、相次ぐ弾道ミサイルの発射を強行したほか、ロシアとの連携を一層強固なものとし、我が国にとっての脅威を増大させている。３年目に入ったロシアによるウクライナ侵略、長期化するガザをはじめとする中東での紛争等、我が国の安全保障に影響を及ぼす事象は枚挙に暇がないと言わざるを得ない。我が国にとって、日米、日米韓、あるいはG7といった枠組みにおける協力関係は、安全保障の根幹をなすものであるが、このような中においても、米国では共和党政権に政権が交代し、また、韓国では大統領弾劾を巡る審判が本格化するなど、節目を迎えている。

激動する環境の中で、我が国の安全を確保するためには、日々生起し、又は生起しようとしている事象についての情報を、正確かつ迅速に収集し、それらについて的確な分析・評価を行った上で、効果的な対策（政策）を講じていくことが必要不可欠である。ここで何よりも重要なことは、情報を収集・分析する部門と政策を立案する部門とが密接に連携しつつも、分離されているということである。情報部門が政策部門に迎合し、その意に沿った情報しか出さないということになれば、情報部門はマイナス以外の何物でもないと言えよう。

内閣情報調査室は、内閣総理大臣を直接補佐・支援する内閣官房において、「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」を担当している。国内外の様々な情報を収集・分析し、内閣総理大臣をはじめとする要路に定期的に報告することで政策決定を下支えしている。また、我が国に複数存在する情報関係省庁で構成された情報コミュニティの扇の要として、政策部門との連絡調整を通じた「連携」と「分離」の確保を図っているほか、コミュニティ全体の発展のための活動を行っている。まさに、我が国インテリジェンスの中核に他ならない。

情報の世界は、小説や映画で描かれているような超人的な個人が縦横に活躍する世界ではなく、「チームスポーツ」の世界という表現が相応しい。生まれ育った我が国の安全を確保するという強い使命感の下、多様な知識・経験を有するメンバーが集い、諸課題にチャレンジする。そのようなチームの扉を、一人でも多くの前途有為な皆さんが叩いてくれることを期待している。

内閣広報室提供

CABINET INTELLIGENCE and RESEARCH OFFICE

Contents

3　内閣総理大臣を直接補佐・支援する、内閣官房
4　内閣情報調査室の組織体制
5　「インテリジェンス」を紡ぐ
7　総理を支える目・耳としての役割
8　情報コミュニティ省庁の「要」としての役割
8　官邸のニーズや国際情勢等を踏まえた機動的な取組
9　内閣情報調査室の業務
11　内閣衛星情報センターの業務
13　１年目職員に聞いてみました
15　ベテラン職員×中堅職員による対談
17　ワークライフバランス
19　キャリアパス
20　採用について
20　制度・待遇
21　2025年度採用スケジュール
22　内閣情報調査室の歴史と発展

内閣総理大臣を直接補佐・支援する、内閣官房

「内閣官房※1」は、内閣※2の補助機関であるとともに、**内閣の首長たる内閣総理大臣を直接補佐・支援する機関**です。具体的には、内閣の庶務、内閣の重要政策の企画立案・総合調整、情報の収集調査などを担っています。

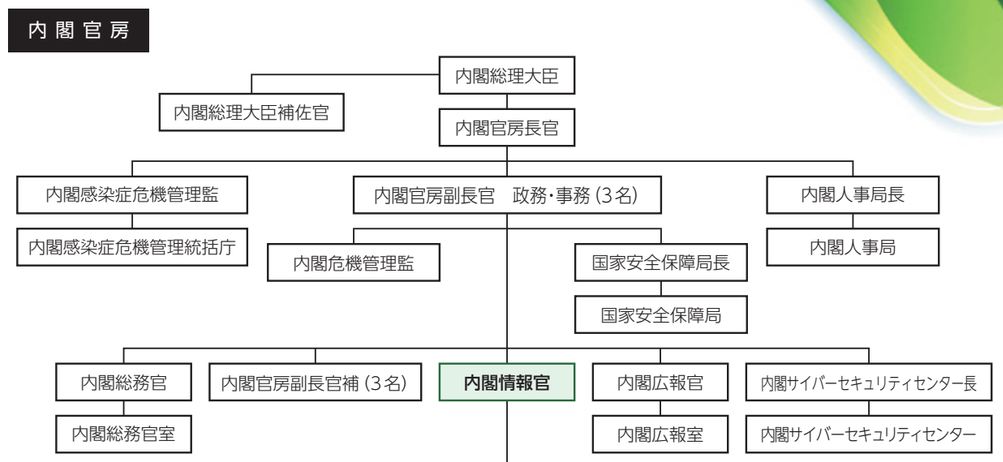
内閣官房の職務のうち、内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する主な事務は、**「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」**と定められており、非常に幅広い分野を対象としています。

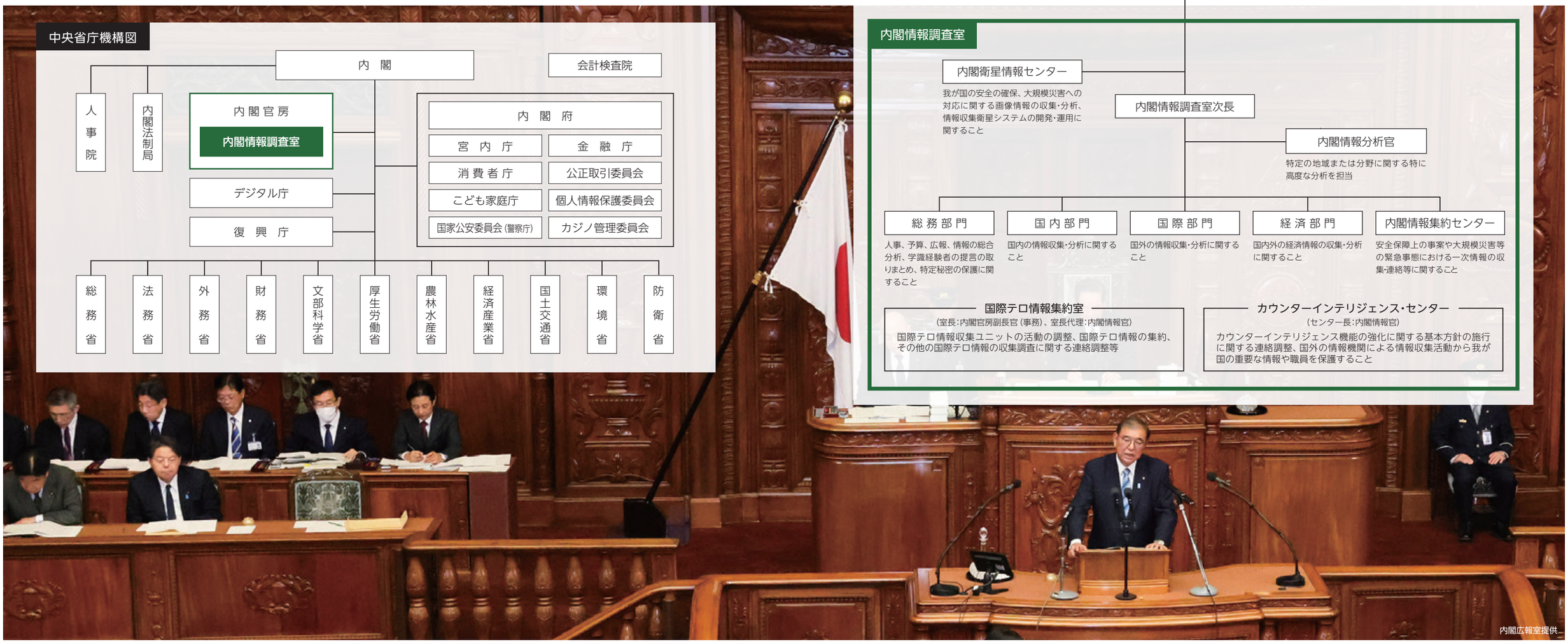
内閣官房組織令 第4条

※1：内閣法 第12条により、内閣に置かれています。
※2：内閣総理大臣と国務大臣で組織

内閣情報調査室の組織体制

内閣情報調査室は、多機能型の総合的な機関として拡大しつつあります。





内閣広報室提供

「インテリジェンス」を紡ぐ

タイムリーで質の高い「情報（インテリジェンス）」を紡ぎ出すことが、私たちの仕事です。

私たちを取り巻く様々な国内外の情勢や重要課題について、背景の調査・現況の把握と今後の動向の分析を、客観的・中立的・多角的な観点から行っています。

What is Intelligence？ 「インテリジェンス」とは

「インテリジェンス」について、一般的には次の定義※があります。

①政策決定者が国家安全保障上の問題に関して判断を行うために、政策決定者に提供される、情報から分析・加工された知識のプロダクト

②あるいは、そうしたプロダクトを生産するプロセス

※小林良樹「インテリジェンスの基礎理論〔第二版〕」，立花書房，平成26年6月，4ページ

内閣情報調査室における「インテリジェンス」の創造

内閣情報調査室は、その立場を活かしつつ、様々な情報収集・分析活動を通じて、政策決定者の判断に資する「インテリジェンス」を日々生み出します。決して表舞台に出ることはありませんが、「インテリジェンス」によって、国家運営を下支えしています。

収集

国内外の様々な人から話を聞くほか、公開情報の収集、海外の情報機関との情報交換、他省庁からの情報の集約、人工衛星による画像情報の収集等、積極的に情報収集を行っています。

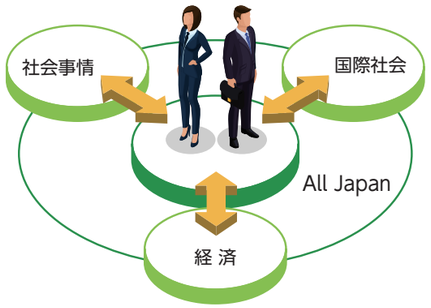
分析

様々な情報収集手段（公開情報、衛星画像情報、人的情報等）によって得られた情報に基づき、分析を行っています。

縦割りにとらわれないオールジャパンの視点

特定の政策や分野に縛られない“オールジャパン”の視点から業務が行えることは、当室の大きな特徴のひとつです。

内閣情報調査室は、「内閣の重要政策に関する全ての情報」を取り扱います。すなわち、特定の事項に限定されることなく、幅広い事象を対象として情報の収集・分析を行っています。



国家戦略としての「インテリジェンス」の強化

国家安全保障戦略（2022年12月閣議決定）に基づき、今後、「多様な情報源に関する情報収集能力を大幅に強化する」こと等が求められています。

Mission 1

総理を支える目・耳としての役割

～ 政策決定プロセスの支援 ～

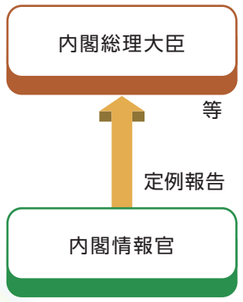
内閣広報室提供

情報機関の役割は、政策決定者の判断を支えることです。

政策決定者が国家の進むべき方向性を決定する際、背景事情やリスク・利益といった物事の見通しがなければ、正しい判断を行えません。インテリジェンスとは、いわば国家という大きな船が航海する上での不可欠な海図なのです。

インテリジェンスの提供

内閣情報調査室が提供するインテリジェンスは、様々な場面で国の政策決定を支援しています。



内閣総理大臣への定例報告

毎週定例の内閣総理大臣への報告を行っています。重要かつ緊急を要する情報については随時報告されます。総理の目と耳としての役割を果たし、官邸の柔軟かつ機敏な政策決定を支援するのが当室の役割です。

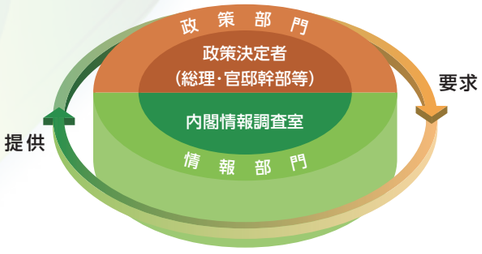
国家安全保障会議（NSC）への参加

内閣情報官が国家安全保障会議（NSC）に出席して報告を行っています。NSCに提供された情報は、国家安全保障局により、政策立案等のために活用されています。

インテリジェンス・サイクル

情報と政策は、分離しつつも密接にリンクしています。

政策決定者が自ら情報収集を行うと、結論ありきの恣意的な内容になりかねません。政策を決める者（政策部門）と、情報を扱う者（情報部門）は、明確に立場を分ける必要があります。しかし両者は乖離することなく、密接にリンクしています。両者は、インテリジェンスの要求と提供を繰り返し、有機的なインテリジェンス・サイクルを形成しています。



インテリジェンス・サイクル

Mission 2

情報コミュニティ省庁の「要」としての役割

内閣情報調査室は、情報コミュニティの「要」としての役割を果たしています。

当室は、官邸の政策担当者と情報コミュニティ省庁、両者をつなぐ連絡調整の役割を担っています。閣議決定に基づき設置された内閣情報会議、合同情報会議、情報収集衛星推進委員会及び情報収集衛星運営委員会を開催するほか、当室が中心となって関係省庁との連絡会議を随時開催し、いわば「オールジャパン」で内閣の政策判断を支援する体制が構築されています。

さらに、連絡調整機能を活用しつつ、例えば次のような取組を進めています。

- 内閣情報分析官の下、各省庁から集約された情報を基に、情報評価書を作成
- 情報コミュニティ省庁間での情報共有のための基盤及び人的基盤の整備に向けた取組

Mission 3

官邸のニーズや国際情勢等を踏まえた機動的な取組

内閣官房国際テロ情報集約室・国際テロ情報収集ユニット（CTU-J）

邦人の安全確保のため、官邸直轄で「国際テロ情報集約室」、「国際テロ情報収集ユニット」の２つの組織体が整備されています。「国際テロ情報集約室」は、官邸幹部や関係省庁の情報関心の取りまとめ等を行い、これに基づいて、「国際テロ情報収集ユニット」が、いわば官邸直轄の実働部隊として、海外でファーストハンドの情報収集を行っています。

偽情報対応を中心とする公開情報の収集・分析体制

内閣官房の関係部局とも連携し、国家安全保障戦略に記載されている「外国による偽情報等に関する情報の集約・分析」を情報面で担っています。

令和５年４月14日（金）官房長官会見から抜粋

- 国家安全保障戦略に記載された、外国による偽情報等に関する情報の集約・分析、対外発信の強化等のための新たな体制を、内閣官房に整備する。
- 内閣情報調査室の内閣情報集約センターにおいて様々な公開情報の収集・集約・分析を行うこととし、その一環として、内閣情報官の下で、外国からの偽情報等の収集・集約・分析を実施する。

このほか、国際情勢を踏まえて、サイバーや経済安全保障に関する情報収集・分析を行うための体制を構築しています。

Works 1

内閣情報調査室の業務

総務部門

人事・会計・予算・国会対応といった管理・調整業務のほか、以下の業務を行っています。

情報の総合分析

特定の地域・分野について、内閣情報分析官の下で高度な分析に従事するとともに、内閣情報会議や合同情報会議の運営等、情報コミュニティの連携を強化するための業務を行っています。

学識経験者の提言取りまとめ業務

各界の有識者から様々な情報や見解、提言などを聴取します。取りまとめた情報等は当室の作成するプロダクトに活用されます。

特定秘密保護法に関する業務

特定秘密保護法を所管し、特定秘密の保護に関する行政各部の施策の統一を保持するために必要な企画立案総合調整に関する業務を行っています。

コラム　若手職員・女性

私は、有識者というチャンネルを用いて情報収集を行っています。聴取した内容は部門内で共有した上で取りまとめ、速やかに室内幹部や担当部門などに共有されます。第一線で活躍する有識者から最新情勢を学ぶ貴重な機会を得られる業務ですが、有識者との接点を維持するための人間力が求められるほか、有識者の専門分野についての入念な事前準備が必要とされます。多種多様な分野における幅広くかつ専門的な前提知識が要求されるため、日々国内外情勢をチェックし、有識者の著作などを通して最新情報のインプットを心がけ、様々な事柄に関心を持つようにしています。失敗が許されない仕事ではありますが、上司や同僚に相談しながら分担し、公私共に充実した毎日を送ることができています。当室では、思わぬタイミングで思わぬ知識が活きることがあります。多様なバックグラウンドを持っていらっしゃる皆さまと共に働けることを楽しみにしています。

国内部門

政治・社会事情について、国民の意見の収集・分析や国内の新聞・放送・雑誌などの論調分析を行っています。

メディア情報を用いた情報収集・分析

一般に公開されている新聞・雑誌・テレビ等のメディア情報を継続的にチェックし、重大な事案として発展する可能性がある情報の収集・分析を行っています。

各界の専門家との意見交換

国政の主要課題に精通あるいは影響力を持つ各界のプロと意見交換を行い、情報収集・分析を行っています。

コラム　若手職員・男性

私は、日々変化する国内情勢について、国政等に精通した方々にお会いして、官邸にとって必要な情報の収集をしています。同じ部署には、長年にわたって情報収集をしてきた先輩や他省庁で様々な経験を積んだ出向者の方がたくさんおり、楽しく刺激的な毎日です。外では一人で行動することが多い上、お会いする多くの方が情報の世界の第一線で活躍するプロであるため、新聞や雑誌、テレビなどから最新の情報を得ることはもちろん、日々勉強を欠かさずに続けています。同じ部署で活躍する先輩たちを見ていると、おそらくこの仕事で最も大切なことは、「人と関わることが好きなこと」と、「人と誠実かつ真摯に向き合い続けること」だと思います。これらを継続することは難しい側面もありますが、強い信念を持っていれば、どんな人にも成し遂げられると思って頑張っています。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

国際部門

海外の特定の地域や分野に関する情報収集・分析を行っています。

海外関係機関との渉外業務

海外関係機関と意見交換や協議を行い、情報収集・分析を行うほか、関係構築や連携を図っています。

オール・ソース・アナリシス

情報収集には、刊行物やインターネット等の公開情報のほか、例えば人的情報や衛星画像情報といった多種類の情報収集手段を用いています。これらから得られる情報を総合的に評価し分析する「オール・ソース・アナリシス」の体制を構築しています。

コラム　若手職員・女性

私は現在、国際部門で特定の地域に関する分析業務を担当しています。担当地域情勢を日々収集・整理し、上司や同僚との忌憚のない議論を通じて推敲を重ねながら、総理をはじめとする政策部門に向けた報告資料を作成しています。必ずしも地域の専門家ではない読み手に向けて、分かりやすく精度の高い報告資料を作成するには、地域専門家としての能力（地域情勢、歴史的背景への理解、語学力等）のみならず、役人としての能力（文章力、想像力、説明力等）も重要だと感じています。最初に配属された総務部門での経験を活かしつつ、日々変化する国際情勢を追うことで、知的好奇心が満たされる毎日です。
部門内は、地域情勢の議論や仕事の困り事の相談から、ちょっとした雑談まで、気軽にコミュニケーションをとれる環境です。最近は新しく後輩が配属になりました。本人の意向を聴き取りつつ、初めての後輩育成にも奮闘しています。
皆様と一緒に働ける日を楽しみにしています。

経済部門

経済指標にとどまらず、海外の経済政策や個別の産業に関して、情報収集・分析を行っています。

経済情報の収集・分析

国内外の経済指標、株や為替といったマーケット情報や原油等の商品市場の動向、海外の経済政策、日本経済と関連の深い産業に関する情報を収集・分析しています。

経済専門家との意見交換

学識経験者やシンクタンク等の経済専門家と意見交換を行い、経済データだけでは見えない情報を収集・分析しています。

コラム　ベテラン職員・男性

経済部門ではマーケットの動向、国際経済・金融市場の主な動き、米中貿易摩擦問題、AI関連、半導体など、経済関係に関して幅広く調査・分析を行っています。
経済情勢の分析のためには、経済関連で今、何が問題となっているか、新聞や雑誌等で常にチェックして、各国政府や国際機関が公表するデータや論文なども丹念に目を通すことが必要となります。経済は生き物で毎日状況が変わるので、毎日が勝負です。問題点を捉えて、自ら分析を行うとともに、その分野の専門家や有識者に意見聴取し、その意見を参考にして、分析した結果が情報官から官邸に上げられ、政府の参考にされたりします。報告は週単位なので、常に何が問題となっているかアンテナを高く張ることが必要になり、緊張の連続ですが、官邸に役立っていると思うと、やりがいがある仕事だとしみじみ思います。経済部門は様々な官庁からの出向者が多い職場なので様々な意見が聞けることも当部門の面白いところです。どうです、あなたも経済問題に取り組んでみませんか。

内閣情報集約センター

緊急かつ重要な情報の収集・集約のほか、偽情報対応を中心とする公開情報の収集・分析を行っています。

24時間体制による緊急事態対応

各省庁や国内外の通信社との専用回線等を備えており、大規模災害や我が国の安全が脅かされる事案等の緊急事態が発生、あるいはそのおそれのある情報が得られた際には、当センターを経由して官邸幹部に速報する枠組みが構築されています。

偽情報対応を中心とする公開情報の収集・分析

※詳細はp8に記載

コラム　若手職員・男性

内閣情報集約センターの主な業務は、政府における緊急事態の初動対応と偽情報を含む公開情報の収集・分析です。
これに伴い、国内外の情報を関係省庁や通信社等から24時間365日体制で収集しています。夜勤もありますが、ワークライフバランスは整っています。また、昼夜問わず膨大な情報に囲まれることで、その見方や感性を磨くことができます。
とりわけ大規模災害や国の安全を脅かす事案は、日本政府として迅速な対応が必要です。これらは、総理大臣や官房長官等の官邸幹部が直ちに把握すべき情報であり、事案発生時には速報します。
自分のミスや遅れが政府初動の遅れに繋がるため、常に対応方法を確認することが重要です。緊張感がある一方、信頼できる上司や先輩が常に一緒という安心感もあります。さらに、毎日総理官邸で勤務しており、若手でも政府中枢で危機管理の一端を担っている実感と経験は他に代え難く、やりがいがある毎日です。
皆さんも我が組織の一員として、重要性が一層増し続ける「インテリジェンスの世界」へ挑戦してみませんか。

内閣広報室提供

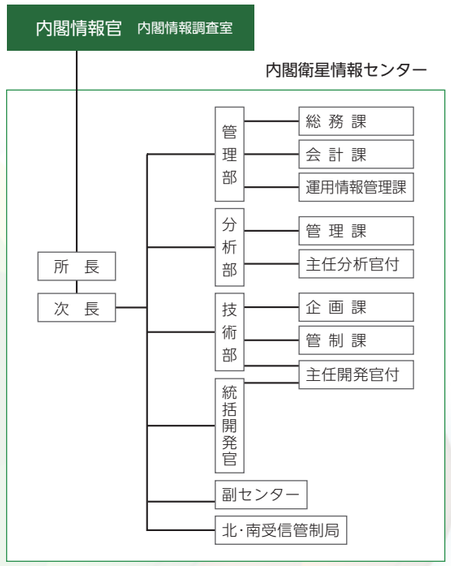
Works 2

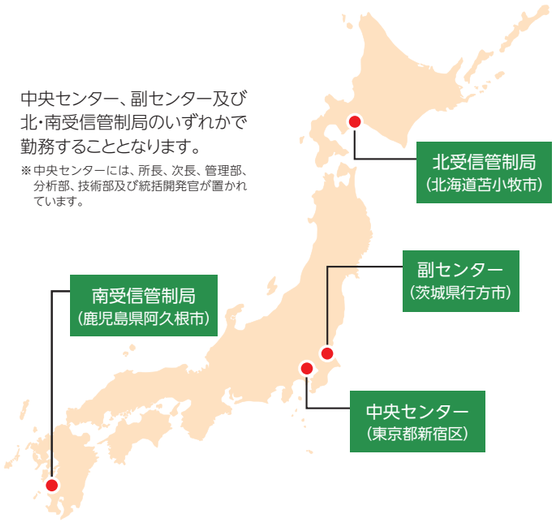
衛星開発から運用、画像情報分析まで行う唯一の政府機関 内閣衛星情報センター

内閣衛星情報センターは、内閣情報官直下の内閣情報調査室に置かれた組織です。
情報収集衛星により撮像した安全保障や危機管理に関する画像を分析し、
官邸をはじめとする政府機関に提供しています。

内閣衛星情報センターの歴史とこれから

内閣衛星情報センターは、平成10年（1998年）の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13年（2001年）に設立されました。現在は、光学衛星２機とレーダ衛星２機の４機体制を確立しており、宇宙基本計画に示されている10機体制が目指す情報収集能力の向上の早期達成に向けた取組を着実に進めています。
10機体制により、地球上の任意の地点を１日２回以上撮像可能になります。また、伝送機会の大幅な増加により即時性も向上し、現在よりも鮮度の高いタイムリーな情報を、官邸や省庁等に提供することが可能になります。





高解像度衛星画像

情報収集衛星は、昼夜を問わず世界中のあらゆる場所を高い分解能で撮像できる能力を持っています。

光学衛星画像

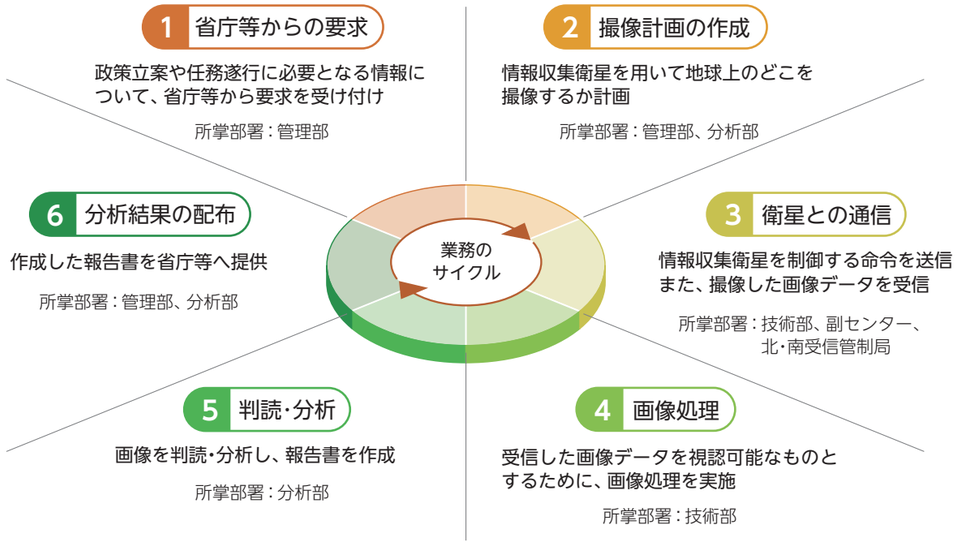
内閣官房HPで公開されている情報収集衛星加工処理画像

レーダ衛星画像

©2019 DLR, Distribution Airbus DS/ Infotera Gmbh, Sub-Distribution [PASCO]

情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務及びそれらを所掌する部署は、下図のとおりです。
このサイクルは省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配布の順に循環しています。



情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集の業務だけではなく、情報収集衛星システムの開発※も独自に行っています。
情報収集衛星システムは、宇宙空間から地上の関心対象の撮像を行う衛星システムと、画像処理等を行う地上システムに分類されます。
情報収集業務を支えるために、運用者のニーズをふまえた的確な開発により、運用しやすいシステムを構築することが求められます。

※内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、衛星の設計図の製図やシステムのプログラミングといった専門的な業務ではなく、情報収集衛星システムの開発業者の選定や、開発管理業務を指します。開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び運用者のニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決定するとともに、システムの開発状況を管理することです。
具体的には、開発予算の作成、最新の技術動向や運用者のニーズ調査、スケジュールの進捗管理等があります。

加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が発生した際には、自治体や国民の皆様に情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。

熊本県（令和２年７月熊本県豪雨による橋梁消失）

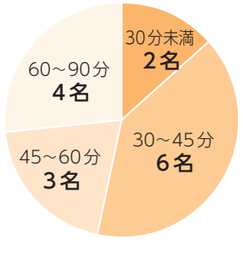
石川県（令和６年能登半島地震による隆起）

Interview

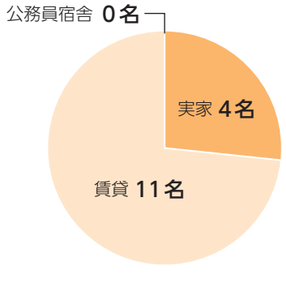
１年目職員に聞いてみました

内閣情報調査室では、採用１年目の職員も第一線で活躍しています。
様々なフィールドで活躍する１年目職員15名※の声をお届けします。
ぜひ、内調に入ってからのイメージを膨らませてみてください！
※内閣情報調査室採用者、内閣情報調査室内閣衛星情報センター採用者を含みます。

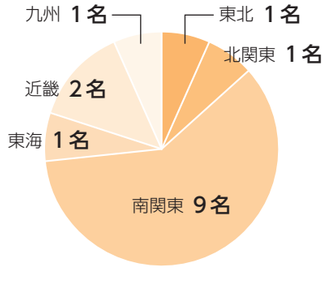
Q1 職場までどれくらい？



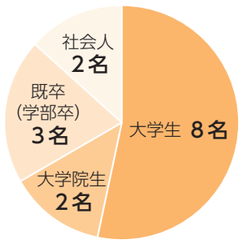
Q2 現在の住居形態は？



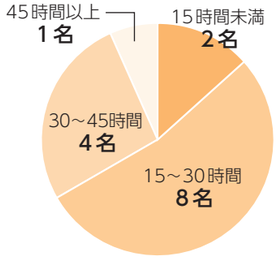
Q3 出身は？



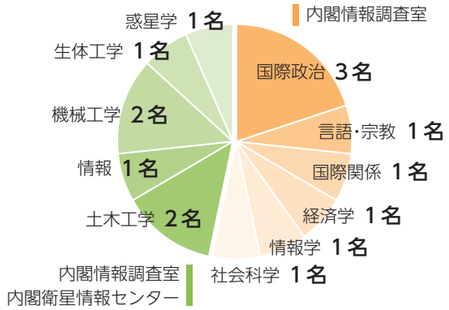
Q4 官庁訪問時の身分は？



Q5 １か月の平均残業時間は？



Q6 大学（または大学院）での専攻は？



Q7 官庁訪問で印象に残ったエピソードは？

- 面接官とのやりとり。堅苦しい雰囲気ではなく、出身地や趣味の話など、緊張感はありながらも会話を楽しむことができた。
- 控室で受験者同士の会話が大いに盛り上がったこと。
- 面接の回数が多かったこと。がっちりとした面接から、ラフな内容のものまで様々だったこと。

Q8 ほかの省庁には無い、内閣情報調査室・内閣衛星情報センターの特色は？

- 官邸に近い分、一つ一つの仕事が総理や官邸の業務に繋がっており、まさに国家の中枢で業務をしていると思うことができる。
- １年目から官邸に入る機会があること。任される仕事が大きいことも特色なのではないかと思う。
- 若手の職員もやる気次第で色々なことに挑戦できる。
- 自前で開発した衛星を職員が中心となって運用したり画像の分析を行ったりする省庁はここ以外にはない。職員の方も技術的なことに詳しい方が多く、開発企業の方も近くにいるので、疑問点があればすぐに聞きに行ける環境があり非常に楽しい！
- 情報収集衛星のメーカーとユーザー２つの役割を持つ唯一の機関。

Q9 入庁前後で感じたギャップは？

- 新人であろうが幹部まで自分自身で説明をする機会が多い点。（新人の間は上司の説明に同行する程度かと思っていました。）
- スパイ映画のような派手な場面は一切ない。
- コンパクトな組織だからこそ、幹部との距離が近い。業務上の悩みからプライベートな話まで、相談に乗ってくださる。
- 思っていたよりも他省庁からの出向者が多く、色の違いを垣間見ることができ、学びが多い。

Q10 入庁してから、１番やりがいのあった・印象に残った業務は？

- 総理に報告する資料の作成に関わったこと。自分が作成を手伝った書類が、そのまま国の最高責任者の目に入るので、かなり責任を感じた。
- 外国と交渉する場面に立ち会い、当室の業務では例外だと思うが、新聞に掲載された時が印象に残っている。
- 毎日、総理官邸に出入りしていること。大規模な災害やミサイル対応の際は、危機管理系省庁同士の緊張感あるやりとりを間近に見ることができ、国の中枢で働いていることを実感した。
- 関係省庁との調整業務。対応を一つ間違えると組織の評価を落としかねないため苦労するが、上手くまとまったときの達成感は格別。
- 初めて自分が作成した情報収集衛星の撮像計画を実際に衛星に送るとなったときの緊張は、未だに印象に残っています。
- 情報収集衛星レーダ８号機の打上げ～初期動作確認の運用に立ち会ったことです。打ち上がった瞬間の感動や、開発機関含め大勢の方が無事に宇宙で衛星が飛べるように一丸となっている姿は忘れられません。

Q11 入庁前にやっておけばよかったと思うことは？

- 何か一つ、熱中できるものを見つけること。プライベートが充実するし、話のネタにもなるため、色々なことに挑戦すればよかったと後悔。
- 興味を持った分野をマスターはできずとも、とりあえず触れておくこと。
- 語学を一定水準にまでしておくこと。生活リズムを確立すること。ストレス解消法をしっかり見つけること。
- 学生にしかできないような長期の海外旅行。
- 定期的に会って、昔話や今の話に花を咲かせられるようなかけがえのない友人を大切にしておくこと。

Q12 職場の雰囲気は？

- 上司や先輩とは物理的にも精神的にも距離が近く相談がしやすいです。同期とは何でも話せる仲です。
- 飲み会などの業務外のことも含め、望めば機会は多いが強制されず、自由で自然体な雰囲気。
- 同期とは休日にも遊びに行くことがあり、仲がいい（ここまで良好な関係を築けるとは思っていなかった）。
- 上司からは、「どんどん休暇を取ってください」と言われているので休暇が取りやすいです。

１年目職員の１日

行政系採用１年目
総務部門で調整業務に従事

- 9:15 登庁。昨日作成したTo Doリストを見ながら、今日やるべき仕事について、締切りから逆算をして優先順位をつける。
- 10:30 決裁を上げるための資料を準備する。上司の指摘を踏まえて適宜修正をする。
- 12:00 昼食。庁外に出て食堂へ直行。ランチが2種類あり、どちらにするかとても悩ましい。ご飯の大盛りへの変更は悩まず決断。
- 13:00 他省庁から確認依頼が来る。上司に報告の上、どのように進めるかを決定した後、関係する室内に展開。
- 16:00 官邸に書類を取りに行く。これで官邸に入るのは数回目だが、やはり緊張する。
- 17:00 国会の動きをチェック。最初は全く分からなかった国会の仕組みも徐々に理解できるようになってきた。
- 18:30 退庁。上司と近くの居酒屋へ行く。1週間の疲れを癒やし、来週へ向けて英気を養う。

行政系採用１年目
総務部門で情報分析業務に従事

- 8:30 登庁。散歩がてら早めに家を出る。登庁後は、メールを確認したりしながら、今日1日何をするかざっくりと決める。
- 9:30 上司の幹部へのレクに同席。バックシートで論点になりそうなところをメモしておく。
- 10:00 上司から提示された資料や本をインプットする。あまり知見のない分野で大変だが、一日で一番集中できる時間かもしれない。
- 12:00 食堂にてランチ。いつも部内で仲良くなった他省庁の人と食べる。時間があるときは外に食べに行ったりもする。
- 13:30 会議のロジのために官邸へ。官邸等の幹部を座席に案内したりと緊張感はあるが、やりがいがある。
- 16:30 有識者との面談に出席するため、庁舎を出る。質問を考えながら聴講しても何も思い浮かばなかったりする。
- 18:30 面談後、そのまま帰宅。基本的には自炊を心掛けているが、同僚との突然の飲み会にも対応可能。
- 23:00 食事後は、映画を見たり、散歩に行ったり、個人的な勉強をしてみたりとリラックスして早めに寝ることが多い。

Dialogue　スペシャル企画

ベテラン職員×中堅職員による対談

現在は幹部として組織力の向上に努めているベテラン職員と、
組織の中核として活躍する中堅職員による対談の様子をお届けします！

各方面からの信頼が厚い
頼れるお兄さん的中堅職員　B

C　日々勉強中
若手採用担当

A　総務部門で管理職を務める
愛されベテラン職員

C　本日はお集まりいただきありがとうございます！未来の内閣情報調査室（内調）職員となる方へ、お２人の経験や想いを伝える場にしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

A **B**　よろしくお願いします。

A　早速ですが、内調はここ数年で採用人数が増加して、採用説明会等のイベントにも多くの方が来てくれるようになりましたね。

C　そうですね。おかげさまで多くの方に内調を知っていただいて、嬉しい限りです。

B　自分もたまに採用イベントのお手伝いをしますが、お越しいただいた皆さんと話をする中で、初心に立ち返ることができ、刺激になっています。

C　いつもお手伝いいただきありがとうございます！

B　いえいえ！いつでも言って！（笑）

C　ところで、採用説明会の場では、よく、“「内調ならでは」の点は何？”、“他の情報コミュニティ省庁と何が違うの？”、という質問を頂きます。

B　それで言うと、Aさんは、他省庁への出向も含め、これまで様々な視点から内調に携わってきた経験があると思いますが、どういった点が「内調ならでは」だとお考えですか？

A　内調においては、「全ての道は情報に通ずる」ということかな。内調職員が経験する業務のほとんどは、将来の情報業務に関わる専門家に至る道。即ち自己研鑽と成長の道であるということ。情報部門に限らず管理業務を担当したとしても、そこは情報マンに不可欠といわれる、ロジカ、管理能力を鍛える場になります。情報部門に配属された暁には、国内情勢や世界の地域情勢を学ぶとともに、プレゼン能力を身につけていくことになりましょう。他省庁の「情報」部門は、多くの部局の中のひとつであり、情報部門一筋でキャリアパスを積み上げる職員は多くはないと承知しています。情報業務を本流として経験を積むことができるのは、情報コミュニティのドライバーである「内調ならでは」といえましょう。Bさんはどうですか？

B　官邸に対する情報面での貢献は、まさに、「内調」という組織にとっての原点・根幹であり、「内調ならでは」の点だと思います。他の同僚職員の多くも同じ考えだと思いますし、また、この採用パンフレットでもきっと、この点を前面に取り上げていることでしょう。ただ、私からは、情報収集・分析面での「連絡調整」を実施するという、この内調のユニークな立場を推したい、と思います。「連絡調整」という言葉に馴染みがないかもしれませんが、平たく言えば、「旗振り役」を担う、ということです。国内外の情勢が複雑化する中、今後、国家の情報機能を一層強化させていくことが求められています。こうした潮流の中にあって、「連絡調整」機能を活用し、政府全体の中で「旗振り役」を担うことが求められているのが、内調ではないか、と考えます。実際、私が内調に入庁してから、特定秘密保護法の制定や国際テロ情報収集ユニットの発足等、情報分野において大きな進展があり、私自身もまた、こうした動きに深く関わってきました。情報機能の強化を取り巻く「渦」の中心に常に位置していること。これこそが、「内調ならでは」の点ではないでしょうか。

C　なるほど･･･。内調の魅力がより分かりやすく伝わりました･･･！現在お２人は総務部門に所属し、いわゆる「管理系業務」を行われていますが、この「内調ならでは」の点を支える上での「管理系業務」の重要性について、どうお考えになりますか？

A　情報機関の管理系業務というと傍流であるかのようなイメージを持たれる方も多いと思いますが、多様化する社会、国際情勢に対応するためには、多様な関心や価値観を有する職員の存在が必須であり、個々の職員がやり甲斐を感じ、自己成長を実感できる職場環境を如何にして実現していくかが、情報機関の管理業務の「肝」になると考えています。幹部や同僚たちも、常にこのことを念頭に業務に臨んでいます。

さらに、情報業務の多くの部分は、個々の職員の対処能力に依存する部分が多く、人的資源の「質」が鍵を握っています。情報を扱う組織であればこそ、人的資源の構成要素である「人」を大事にしていかなければならないと考えます。自分の組織の職員を守れなくて、情報を語れようか。

100％とは言えないまでも、多くの職員がやり甲斐と自己成長を感じ、高い組織成果を発揮できる、そんな組織を職員一丸となって目指していく、これこそが管理系業務の一丁目一番地であり、なるべく多くの職員の意見、希望を汲み取り、皆が安心して働ける職場の実現に向け、悩み、腐心することこそ、醍醐味であるかもしれません。

B　「木の長きを求むる者は必ず根本を固くす」という諺（ことわざ）がありますが、まさにそのとおりであり、組織としての発展は、その足下に盤石な土台があってこそ、です。内調の主要な業務である「情報収集・分析業務」と「管理系業務」は車の両輪であり、そのいずれかが機能不全に陥ってはなりません。ちなみに、私自身は内調職員の中では異端児であり（笑）、「管理系業務」の経歴が長くなっていますが、「情報収集・分析業務」と「管理系業務」の双方を経験する中で、内調の「管理系業務」に対してある種の魅力を感じるようになりました。すなわち、私が今携わっているのは、単なる「管理系業務」にあらず、「情報機関」としての「管理系業務」であり、その全ての実務作業は、日々絶え間なく行われている情報収集・分析活動や、情報機能強化のための各種取組に直結している、と日々実感しています。

C　お２人の熱い気持ちが伝わってきました。そんなお２人から、社会人としてのアドバイスを頂戴したいです。お仕事をする上で、何を大切にされていますか？

A　仕事に取り組む姿勢ばかりでなく、日常生活において意識していることとして、好奇心を忘れないこと、同時に常に自分に負荷をかけるよう、チャレンジ要素を取り入れたいと考えています。遅刻ギリギリの滑り込みを狙うとか、黄色信号に突入するとかではありません。日常生活では、意図せずして負荷がかかるケースもあります。そんな時でも、冷静沈着に対処できるよう、心の精進を忘れないこと。１センチでも、ほんの少しでも目標に近づけるよう、頑張ってみる、そんな心意気を常に心に秘めておくこと。それが自分自身を成長させる力の源泉になろうと確信します。自分の目標は、いつかまた在外勤務に出ること。これを実現するべく、語学レベルの向上を目指し、通勤途中、映画の台詞をブツブツ言ったり、ほんのささやかな負荷ですが、「明日へのチャレンジ」を忘れないようにしています。

B　私が仕事をする上でいつも心がけているのは、「思考を止めない」ということです。今行うべきことは何か、なぜこの仕事を行わなければならないのか、相手に伝えるべき点は何か、もっと他に良い方法があるのではないか等々、常に考え続けています。同じ業務を行う場合であっても、「単にこなす」のと、「考え藻掻いた末に答えを見出す」のとでは、得られる経験や技能に大きく差が出ると考えます。この思考は、情報収集・分析活動においても必須のものであり、今は「管理系業務」に就いていますが、来るべき将来に向けて、日々自問自答しつつ、爪を研いでいます。もっとも、このままいくと、研ぎすぎて深爪になるかもしれませんが（笑）。

C　ありがとうございます。お２人の心がけは、私自身にとっても、大変参考になりました･･･！最後に、この対談をご覧になっている皆さんに一言メッセージを頂き、対談を終了したいと思います。

A　私が内調を職場として選んだのは、情報業務という特殊性に興味をもったのと同時に、職員の方々との会話を通じて感じた親近感でした。皆さんも、多くの省庁を訪問されることでしょう。ひとつでも多くの省庁を訪問し、どうかご自身の感覚で、居心地の良い場所、コミュニティを感じてください。

皆さんが官庁訪問を通じ、やり甲斐を感じ、安心して未来を託し、自身を成長に導くことができる組織に出会えるよう祈っています。

B　どの省庁を希望するかは、大事な決断です。じっくりと悩んでください。その上で、皆さんが、このパンフレットや対談を読んで少しでも内調に関心をお持ちになり、御縁があって同僚として働けることがあれば、日本の情報体制を共に前進させていきましょう。

C　お２人とも本日はありがとうございました！

この対談をご覧になった皆さんが内調職員として我々の仲間になっていただいた際は、是非、今回の対談相手であるお２人を探し当ててみてください！

Work＆Life Balance

ワークライフバランス

内閣情報調査室では、職員のワークライフバランスの実現に向けて、各種制度の推進に取り組んでいます。

スペシャル企画

子育てをしながら情報業務の最前線で活躍する職員の１日に密着しました！

Column

私は、総務部門に所属し、外国語を用いる分析や調整業務に従事する職員です。
現在、「育児時間制度」を利用して、毎日２時間程度勤務時間を短縮し、子育てをしつつ勤務をしています。現所属の前は他省庁に出向していましたが、出向先でも同制度に加え、「育児休業」を取得したりするなど、おかげさまでワークライフバランスを維持しつつ、勤務を継続することができています。
家庭と業務の両立においては、業務に使える時間が特に限られていることが課題です。その中でも、調整業務については、若手の頃に培った「役人経験」（情報業務のためにも大事なのです。）で円滑に実施できています。また、分析業務については、語学力が高ければ高いほど、短い勤務時間でもより多くの成果につなげることができると感じているため、自宅で家事をしながらなど、努めて語学の勉強をしています。
職場環境もよく、上司や同僚に恵まれ、各種休暇も取得しつつ短い勤務時間でも何ら問題なく勤務できていますので、大変ありがたく思っています。他方、この状況に甘えることなく、育児と業務に加え、外国語を用いる業務に当たる情報機関員として、今後も語学力を自己研鑽していきたいと思っています。
なお、子どもはまだ、私がどこで働いているか知りません。某有名作品のように、医者のふりをするのは無理があるところ、是非当室に入っていただき、適切なカバーストーリーを教えてください（笑）。

6:00　7:00　8:00　9:00　10:00　11:00　12:00　13:00　14:00　15:00　16:00　17:00　18:00　19:00　20:00　21:00　22:00　23:00

6:00 起床

子供がまだ寝ているうちに、
語学の勉強をしながら食事、
準備等をする。
その後、子供を円滑に起床させ、
遅滞することなく朝食を
食べるよう真剣に働きかけを行う。

8:00 子供を保育園に預けて通勤

ここまでで既に１日の体力の半分を使い果たし、
謎の達成感がある…。
通勤時間は貴重な語学の勉強時間であり、
１日の中である意味最も「自由」。

9:30 登庁

行きの通勤時間で考えてきた優先順位で業務をしていく。
業務が語学の勉強にもつながるありがたい職場で楽しく業務
（映画のような薄暗い職場では全くありません！）。

15:45 退庁

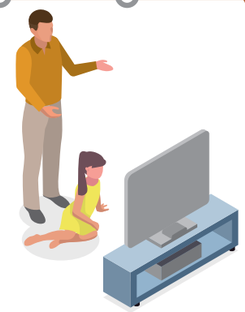
帰りの通勤時間も語学の勉強。
「●●線は単語、■■線は長文」等と、
やることを事前に決めておくと、
無駄にスマホを見る時間が
なくなるのでおすすめ（自戒）。

17:00 子供の保育園迎え

保育士の方々にはいつも感謝。
帰り道のコンビニで、チョコレートと
アイスクリームの購入を子供に強く求められる。
拒否して騒がれると困るので、渋々購入。

18:00 ～ 夕食を含む家事、育児等

子供が見ている外国語アニメの登場人物の
発言を説明したところ、「静かにして」
と怒られる。
他方、外国語より、まずは日本語を
覚えてほしい（切実）。



23:00頃 就寝

この時間までに、紆余曲折を経て
子供を寝かしつけた後、
スリープタイマーをセットして、
語学教材を聞きながら就寝。
多少は効果があるはず…。

各種制度

産休・育休制度

- **産休制度(女性のみ)**
  産前６週間～産後８週間までの期間に取得可（有給）
- **「男の産休」制度**
  配偶者の出産に際し合計７日間の休暇を取得可（有給）
- **育休制度(全職員)**
  子が３歳に達する日までの期間取得可
  ※特に男性職員については、生後１年の間に１か月以上の取得を推奨しています。

育児に係る時間短縮制度

- **育児時間制度**
  小学校就学前の子を育てる職員（男女問わず）が、勤務時間の始めか終わりに２時間まで無給休暇取得可
- **育児短時間勤務制度**
  小学校就学前の子を育てる職員（男女問わず）が、希望する日・時間について適用可

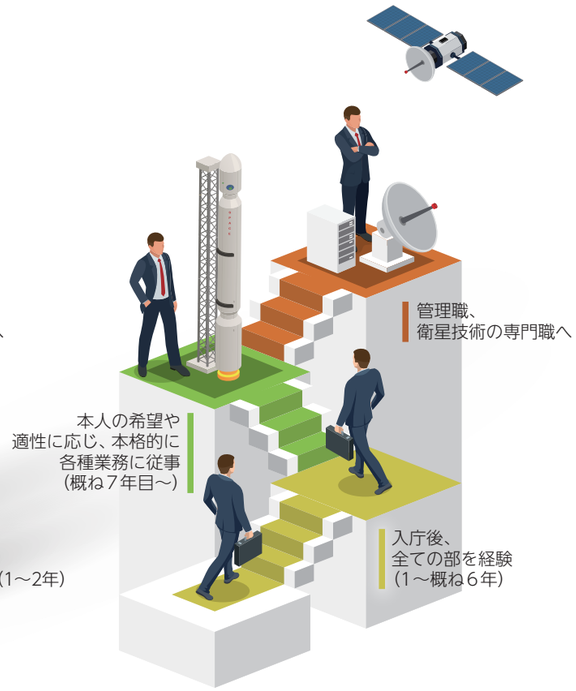
各種休暇制度（有給）

- **年次有給休暇（年休）**
  理由を問わず取得できる休暇。毎年20日ずつ付与され、前年の未使用分は20日まで繰り越し可
- **特別休暇**
  用途の定められた休暇。冠婚葬祭や夏季休暇（3日）など
- **子の看護等休暇**
  小学校3年生までの子を育てる職員（男女問わず）が、1年に5日（子が2人以上の場合は10日）まで取得可
- **病気休暇**
  入院や手術等、私傷病により休まなければならない場合、最長３か月間取得可
- **出生サポート休暇**
  不妊治療に係る通院等のために、1年に5日（体外受精及び顕微授精の場合は10日）まで取得可

Career Path

キャリアパス

内閣情報調査室



内閣情報調査室
内閣衛星情報センター

人材育成・キャリアアップの機会

日本の情報コミュニティの柱となる人材の育成を目指し、様々な研修のほか、他省庁への出向、在外公館勤務等、キャリアアップのための豊富な機会を積極的に設けています。

初任者研修

新規採用の職員向けに複数回に分けて実施します。秘密保全教育に加え、情報機関の役割、各部門の業務を知ることで、日本のインテリジェンス体制及び内閣情報調査室の全体像を具体的に把握し、当室の主力となる人材の素地を作ることを目的としています。

語学習得の支援

語学学校への通学補助や、組織内での研修を行っています。

研究員派遣制度

人事院の研修制度（行政官長期在外研究員制度、行政官国内研究員制度等）を活用して、「専門性」に磨きをかける機会を設け、職員がスキルアップできる環境を整えています。

他省庁への出向

専門性を強化し行政事務経験を積むため、情報コミュニティ省庁（警察庁、外務省、防衛省等）や内閣府等への出向の機会があります。

在外公館勤務

内閣情報調査室の職員として培った知識・経験を生かして海外で勤務します。在外公館勤務は国外で多様な人々と仕事をする貴重な機会であり、希望する職員には積極的に機会を与えています。

Recruitment

採用について

内閣官房は原則として各省庁からの出向者で構成されていますが、内閣情報調査室はその中で唯一、独自の定期的採用を行っています。

（　）内は女性の数

採用数一覧表		内閣情報調査室	内閣情報調査室 内閣衛星情報センター
官庁訪問年度	令和３年度	7（3）	4（2）
	令和４年度	8（2）	6（2）
	令和５年度	8（1）	6（3）
	令和６年度	9（4）	3（2）
	令和７年度	**10名 程度**	**6名 程度**

※最新の情報については、業務説明会等でお知らせします。

採用に関する Q&A

Q 官庁訪問はどのように行っていますか。

内閣情報調査室の官庁訪問では、１人の訪問者に対し複数回の面接を行っています。面接回数は、他省庁の官庁訪問より多いかも知れません。
内閣情報調査室内閣衛星情報センターの官庁訪問では、若手職員、ベテラン職員、管理職等の面接官による階層型の面接を行っています。
上記いずれの官庁訪問においても、訪問者の人柄、企画力、コミュニケーション能力、将来性等を総合的に評価します。

Q 技術系区分受験者の採用は行っていますか。

内閣情報調査室、内閣情報調査室内閣衛星情報センターのどちらにおいても、全ての技術系区分受験者を対象とした採用を行っています。
官庁訪問の際には、上記２つのうちどちらでの採用を希望するか選んでいただき、それぞれの選考に進んでいただくことになります。

Q 語学力はどのくらい求められますか。

当室では、国際関係業務が年々拡大しており、採用後の業務においても語学力が要求されることがあります。しかし、官庁訪問時に必ずしも高い語学力を有している必要はありません。語学力に自信がなくとも積極的に挑戦いただければと思います。ただ、国際関係業務を志望する方は、採用後に語学力を身につけようとする意志は持っていて欲しいと思います。

Q 求める人物像を教えてください。

- 我が国のインテリジェンスを支えたいという「強い意欲」をお持ちの方
- その時々の状況に合わせて対応できる「柔軟性」をお持ちの方
- 広く社会全体にアンテナを張り巡らせる「視野の広さ」、物事の背景を解き明かしたいと思う「好奇心」をお持ちの方
- 時に困難な状況であっても、解決策を見出そうとする「粘り強さ」、「意志の強さ」のある方

上記に限らず、当室にご興味のある方は積極的に門を叩いていただければと思います。

Benefits

制度・待遇

初任給（令和７年度現在）	行政職（一）１級25号俸 271,200円（地域手当、本府省業務調整手当含む） ※大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。
賞与（ボーナス）	期末手当、勤勉手当として、年間4.60月分
諸手当	扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当等
勤務地	内閣府本府庁舎（東京都千代田区永田町1-6-1）、 内閣衛星情報センター（東京都新宿区市谷本村町9-5）
勤務時間	原則 9：30～18：15（勤務時間変更制度活用可）
休暇	年次有給休暇20日間（4月採用者は、その年の12月まで15日間）、特別休暇（夏季、結婚、忌引等）等 ※仕事と育児・介護の両立を支援する制度があります。
福利厚生	● 共済組合制度　● グループ保険制度（団体保険、団体積立）　● 診療所（内科、歯科） ● 定期健康診断　● 人間ドック

Application Process

2025年度採用スケジュール

採用担当者から皆さんへ

「内閣情報調査室に入ろうと思った決め手は何ですか。」私が採用担当になってから、業務説明会等で皆さんから何度も頂いた質問です。「官邸との近さ」、「扱う業務の幅広さ」など、当室での活躍の幅に可能性を感じて志望しましたが、思い返してみると、志望理由の根底部分となったのは「職員の人柄・居心地の良さ」でした。
学生時代に何度か当室の採用イベントに参加しましたが、様々な職員と会って話すうちに、「自分もこんな風になりたい、こんな人と働きたい」という思いを募らせていました。そして今となっては、その先輩と同じ部屋で働いています。その先輩に限らず、知識・経験が豊富な先輩職員に囲まれながら、皆で一丸となって我が国のインテリジェンスを支える業務に取り組んでおり、「私の選択は間違っていなかった」と感じる毎日です。
一緒に働く職員がどんな人かということを職業選択のポイントの一つとしている方もいらっしゃるのではないでしょうか。業務説明会等を通して、是非当室の様々な職員とお会いいただければと思います。
情報を扱うのは「人」です。また「人」は、当室が機能するために欠かせない土台であり、武器でもあります。当室で最前線に立って活躍している職員は、もれなく「人」と誠実に向き合い続けています。就活も同じ。ありのままの自分で、当室職員に向き合っていただければと思います。我々も皆さんの姿勢に真摯に向き合い、少しでも皆さんのお力になれるよう努めていきます。

採用スケジュール

6月　1日	第一次試験日
6月25日	第一次試験合格発表／ 官庁訪問予約受付開始
7月　2日	官庁訪問開始
7月　9日～ 25日	第二次試験（人物試験）期間
8月12日	最終合格発表日
10月1日	採用内定

説明会情報

採用ホームページをご確認ください。
https://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html

連　絡　先

内調情報調査室

採用専用TEL
03-5253-2107

内閣情報調査室内閣衛星情報センター

採用専用TEL
03-3267-9564

Our History

内閣情報調査室の歴史と発展

内閣情報調査室は、戦後、我が国が再び国際社会の荒波に耐えうるよう、
旧総理大臣官邸の小さな一室で産声をあげました。着実に発展の道を歩み、年々組織の重要性が高まっています。
情勢の変化に応じて業務拡大の一途をたどる内閣情報調査室の職員には、
一つ一つ正確にかつスピーディに対応していく柔軟性と機動力が求められています。

Beginnings 1952

1952	昭和27年4月9日 第3次吉田内閣	内閣総理大臣官房調査室 （総理府の組織として新設）
1957	昭和32年8月1日 第1次岸内閣	内閣調査室 （組織改編により内閣官房に）
1986	昭和61年7月1日 第2次中曽根内閣	合同情報会議を設置 内閣情報調査室 （内閣官房の組織再編により名称が変更）
1996	平成8年5月11日 第1次橋本内閣	内閣情報集約センターを設置 （緊急な重要情報を24時間体制で収集し、内閣総理大臣等へ報告する）
1998	平成10年 10月27日・12月22日 小渕内閣	内閣情報会議を設置 情報収集衛星の導入について閣議決定
2001	平成13年1月6日 第2次森内閣	内閣情報官を設置 （中央省庁再編に伴い内閣情報調査室長から格上げ）
2001	平成13年4月1日 第2次森内閣	内閣衛星情報センターを設置 （情報収集衛星の開発・運用、画像情報の収集・分析）
2008	平成20年4月1日 福田内閣	カウンターインテリジェンス・センターを設置 （外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護） 内閣情報分析官を設置 （特定の地域または分野に関する特に高度な分析）
2014	平成26年12月10日 第2次安倍内閣	「特定秘密の保護に関する法律」の施行 （内閣情報調査室が特定秘密の保護に関する企画及び立案並びに総合調整事務を所掌）
2015	平成27年12月8日 第3次安倍内閣	国際テロ情報集約室を設置 （国際テロ情報の集約、国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整）
2018	平成30年8月1日 第4次安倍内閣	国際テロ情報集約室に「国際テロ対策等情報共有センター（現：国際テロ対策・経済安全保障等情報共有センター）」を設置 （内調を含む関係11省庁と連携し、テロ情報の共有・分析を行う）